

立命館経済学 第十七巻総目次 (昭和四十三年度)

論 説

号 頁

A・スミス、D・リカアドオ、J・S・ミルにおける

租税理論の展開 (Ⅳ)……………貧浦格良 一(一)——二六(二六)

——古典学派における財政思想(Ⅱ)——

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法 (二)……………川本和良 二(一三七)——四三(六九)

マルクスの国家観と財政論……………大谷政敬 三(二六三)——二九(二六九)

産業資金と国家資金……………小牧聖徳 三(二九〇)——四三(三〇五)

A・デ・ヴィティ・デ・マルコの財政理論……………西村正幸 三(四〇〇)——七九(三九九)

——その公共財生産理論を中心として——

近世京都商人邦波家の江戸店経営とその没落について……………足立政男 三(四〇〇)——二〇(三六〇)

わが国の出生性比の上昇について……………関 弥三郎 三(四〇〇)——一五(四二二)

シユムペーターモデルの再検討 (上)……………浜崎正規 三(四二二)——二四(四七四)

——開発理論形成のための適応論争をめぐる——

研 究

近代経済学批判の目的と方法、そして近代経済学の

性格規定についての若干の考察 (その一)……………小野 進 一……………二九(二九)——五〇(五〇)

——関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して——

独占と恐慌……………森 啓子 一五(五)——七〇(七)

——自己回復力の喪失について——

近代経済学批判の目的と方法、そして近代経済学の

性格規定についての若干の考察 (その二)……………小野 進 二四(一七)——七五(二〇)

——関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して——

資料

中国における国家資本主義・賃金制度にかんする諸問題……………手島正毅 一七(七)——九〇(九)

——往復書簡の抜粹——

自由民権期の府県会闘争……………後藤 靖 一〇(九)——二七(二七)

——参事院法制局裁定書——

調整期における国民経済と対外貿易……………松野昭二 二(三〇)——一〇三(三八)

ヴェ・エス・ネムチーノフ社会的分業の静学モデル……………小野一郎 二(三三)——一四(六七)

共同研究室

第一回研究会「中国の調整期の経済と対外貿易」……………松野昭二 二(四一)——一四(六七)

第二回研究会「社会主義所有論の諸問題」……………芦田文夫 二(四二)——一四(四四)